

日本舞踊のしおり

祐子の会

森 龍朗 構成・振付
福原 百之助 作曲

さして かざして

J・S・バッハ「平均律クラヴィア曲集」より

西川 祐子
花柳 秀衛

〈演奏〉

囃子 福原 百之助

望月 左太寿郎

西川 祐子 構成・振付
かずはじめ 作詞
都了中 節付

影

J・S・バッハ「無伴奏チェロ組曲第二番」二短調より

媛

西川 祐子

チェロ 吉井 健太郎

浄瑠璃 都了中

杵屋 佐喜

主催 西川 祐子

東京都新宿区市ヶ谷台町八一十二

電話 〇三(三三五五) 二二二七

切符取扱い 西川流事務所(三三五五) 二二二七
国立劇場チケットセンター(三三三〇) 三〇〇〇

入場料 六千円(自由席)

照明 高木どうみょう・舞監 清野正嗣・庶務 加藤繁治
衣裳 長竹輝雄(制作) / 松竹衣裳・かつら 大澤・顔師 新井文雄

令和元年十一月二十二日(金)
午後六時半開場 七時開演
於・三宅坂 国立劇場小劇場
電話 〇三(三三六五) 七四二

公演にあたって

日本舞踊とは、古典とは……。

日本舞踊家とは何者、そもそも

私は日本舞踊家？……。

様々な問いを自分に投げかける、

もう一人の私があります。

舞踊する身体、音・リズムへの

感性を確認してみようと考え、バ

レエの森龍朗氏に振付を依頼、チ

エロの吉井健太郎氏に演奏を依頼

したところ、両氏ともにJ・S・

バッハを土台の音楽にしたい、と

の提案を頂きました。

西洋音楽の原点となるJ・S・

バッハに深く触れ、自分の原点を

確かに振り返り、見据え、古典に

根ざした作品作りが出来ることを

願っています。

西川 祐子

西川 祐子 (にしかわゆうこ)



六歳より父・西川扇藏に手ほどきを受ける。二十二歳より花柳茂香師に師事。祐子の会を主催するほか、えんの会、NHKや国立劇場主催公演等に出演。また平成二十六年より祐子のしおり、研修会「日本舞踊の彩」西川流稽古場で催す等々、

普及活動にも尽力している。日本舞踊振興財団評議員、川村学園女子大学非常勤講師、大妻日本舞踊クラブコーチ。「むすびの会」理事。文化庁芸術祭「優秀賞」など受賞。振付作品に「井筒」「あらばすく」「風や」「道成寺」など。

花柳 秀衛 (はなやぎしゅうえ)



幼少より母・花柳千衛里に学び、平成十一年より花柳寿南海師に師事。昭和六十一年花柳秀衛の名を許され、平成二年師範。平成四年に日本大学芸術学部を学部長賞にて卒業。

秀衛の会を主催するほか、木の花会、日本舞踊協会や国立劇場主催公演、文化庁学校巡回公演などに出演や振付で参加。テレビ出演や海外公演にも。

日本大学芸術学部演劇学科非常勤講師。文化庁芸術祭優秀賞、新春舞踊大会文部大臣奨励賞、舞踊批評家協会新人賞など受賞。振付作品に「いろは道成寺」「笛吹き女」など。

森龍朗 (もりりゅうろう)



昭和二十九年服部・島田バレエ団付属研究所に入所。昭和四十年パリ芸術劇場バレエ団に入団。帰国後、クラシカルバレエ森スタジオ開設、バレエ竜の会主催、同人東京バレエセンタァ結成、振付及び指導活動をする。

昭和五十九年に(社)日本バレエ協会理事、平成七年国立劇場舞踊チーフプロデューサー、駿河台大学非常勤講師、パフォーマンス論、文化庁芸術祭舞踊審査委員長などを経、現在(公社)日本バレエ協会理事。監修に「文化デジタルライブラリー」舞台芸術教材「バレエ編」、著書に「二人の舞踊家」指導者・服部智恵子、振付師・島田廣一などがある。

吉井 健太郎 (よしいけんたろう)



昭和二十九年東京生まれ。六歳からNHK交響楽団のチエロ奏者であった父の手ほどきでチエロを始める。東京芸術大学高等部在籍中に三木敬之氏に師事。昭和四十五年十六才で単身ウィーンに留学。昭和四十八年ウィーン交響楽団オーデションに十八歳で合格。百年以上の歴史ある楽団の初めての東洋人採用。昭和五十四年、二十五歳で同オーケストラの首席チエリストになる。平成十年、日本で初めてのリサイタルを開催、以後日本でも様々な活動を広げる。

平成十八年オーストリア国より「プロフェッサー」の称号授与。現在はソロチエリストとしてヨーロッパ各地で演奏活動を続けている。

福原 百之助 (ふくはらひゃくのすけ)



昭和五十年常磐津文字藏(都一中)の長男として東京生まれ。平成三年祖父、四世寶山左衛門(六代目百之助)に師事、同年望月太喜雄、長唄を東音浅見文子に、平成五年笛を福原徹諸師に学ぶ。福原賢太郎として演奏活動を行い、同十八年に福原流福原百之助派家元

七代目福原百之助を襲名。演奏会、日本舞踊会やワークショップなどの企画や公演を行ない伝統芸能である邦楽の普及に努め、海外公演にも多数参加。(社)長唄協会会員。邦楽囃子「若獅子会」(中島勝祐創作賞、日本芸術文化財団創造する伝統賞受賞)同人。

都了 中 (みやこりょうちゅう)



昭和五十五年東京生まれ。幼少より先代家元都一中及び父・都一中に一中節を学ぶ。平成九年都了中の名を許される。声楽を芹沢文子、長唄を芳村金秀両師に師事。同九年、福井県武生国際音楽会に招待をされる。同十八年から十九年ACCのフェローシッププログラムにてニューヨークに滞在し研修を行なう。

同二十一年定期的に都了中の会を主催するほか、国立劇場主催公演や演奏会、舞踊会に出演、また海外公演にも参加。演奏活動のほか浄瑠璃指導、講演、その他スタジオライブ映画「千と千尋の神隠し」イメージアルバム(CD)に歌で参加など幅広い活動を精力的に行っている。